

News release

12 March 2014

オットーボック社は ソチ 2014 パラリンピック冬季競技大会において 雪と氷の上で熱戦を繰り広げているパラリンピアンを サポートしています。

オットーボックのオフィシャル修理サービスチームは
選手が競技で使用する機器を信頼して競技に臨めるように
朝の 8 時から夜の 8 時まで修理サービスを提供しています。

Quality for life

ソチ 2014 パラリンピック冬季競技大会も日程の半分以上を消化しました。オットーボックの修理サービスチームはパラリンピックに参加している選手が競技開始の直前まで競技のみに集中できるように選手が使用する機器の整備と修理を続けています。

5 ヶ所に設置された修理サービスワークショップでは 180 の修理サービスが実施されました。その中には開会式のセレモニーで車いすを使用する旗手の車いすに国旗を受けるポール受けを取付ける作業もありました。全てのサービスには専門家としての知識と迅速に完了することが要求されます。パラリンピアンが使用する多岐にわたる機器の修理では、過去の大会からの経験を活かすだけでなく、創造性も求められることもあります。今までに 47 ヶ国中 36 ヶ国の選手に対し、全ての競技に関わる修理サービスを実施しています。

自動車レースのメカニカルが提供するサービスと同じように、パラリンピアンが使用する機器の修理と整備を迅速に行い、選手が一刻も早く競技に戻れるようにすることの責任を認識しながら、ワークショップでは修理が行われています。

今大会から種目に追加されたスノーボードの選手、Patrice Barattero（フランス）と Stefan Lösler（ドイツ）も修理ワークショップにやってきました。

切断者用のスノーボードの開発をサポートしてきた Patrice は 14 日の競技に参加する前に技術的なアドバイスを受けるためにワークショップにやってきました。

「Patrice は ProCarve（オットーボック社のスポーツ用義足）を使用する最初の選手であり、義足の開発者をサポートしてきました。」とオットーボックの技術者である Bart Carleer（ベルギー）は語っています。

「Patrice は技術とスノーボードの扱いにはとても詳しいのですが、私たちの所にアドバイスを求めてやってきました。こうした専門的な修理ばかりではなく、選手の中には機器のセットアップに関して技術者と話をし、競技前の気持ちを落ち着かせるためにやってくる選手もいます。」

「Patrice と Stefan はパラリンピックに初めて参加することにドキドキしています。一番の喜びは、この競技を世界中に知らせることができ、切断者の方々に挑戦してみようという気持ちをおこさせる機会となることです。」

修理の中で一番多かったのはアルペンスキーの修理で、92件ありました。その他の58件はアイススレッジホッケーの競技中に発生しています。激しい試合の中で壊れた機器を直すために溶接の専門家が常に待機しています。

競技もあますところ後4日となり、試合はますますヒートアップして来ています。オットーボックの技術者は、選手が機器の限界までベストを尽くすために修理件数が伸びるのではないかと予測しています。

パラリンピックは4年の間に積み重ねた努力と忍耐の頂点にあります。ほぼ全ての選手が今までのトレーニングや競争の成果を機器に頼っています。問題が発生した場合に頼りにするのは私たちオットーボック・サービスチームであり、この責任を重く受け止めています。25年の間に、修理技術サービスが選手にとって必要不可欠なものとなり、選手の間では信頼と献身という評判が広がってきました。

問題が起きた時に選手は私たちを信頼してくれます。全てのオットーボックの技術者はこのことを大変誇りに思っています。そしてこのような形で選手をサポートできるのはとても名誉なことです」とオットーボックの修理技術サービスチームのオーガナイズングダイレクターである Peter Franzel は語っています。



写真脚注：オットーボックの修理技術者は、ソチ2014パラリンピック冬季競技大会の5カ所の修理サービスワークショップにおいて、選手が雪と氷の上で競技し続けることができるように毎日12時間の修理サービスを提供しています。世界中から参加した28人の修理技術者は、機器の修理を短時間で完了させる為に修理技術サービスプロバイダーであるオットーボックヘルスケア社のワークショップで日夜働いています。写真は溶接をする技術チームのスタッフ。
(写真提供：Getty Images for Ottobock)

ソチ大会における修理技術サービスの概要と過去の実績

- マウンテンクラスター（山岳エリア）とコースタルクラスター（沿岸エリア）の2ヶ所のパラリンピック村、およびアルペンスキー、クロスカントリースキー／バイアスロン、アイススレッジホッケーの3会場に修理サービスワークショップを設営し、サービスを提供します。
- ワークショップ開設後には、47ヶ国から参加する600名のパラリンピアンだけでなく、パラリンピックファミリーに対しても、24時間、無休でサービスを提供します。
- 28名の義肢装具士、車いす技術者、溶接の専門家が修理サービスに従事。技術者はカナダ、ブラジル、韓国、日本、英国、アメリカ、オランダ、ベルギー、ドイツ、レバノン、スイスから参加します。
- ワークショップには9トンにもおよぶ修理設備機器が設置され、いかなるメーカーの製品にも対応できるように11,000個の修理用のパーツを備えています。
- 1988年のソウル大会からパラリンピックのパートナーとして修理技術サービスの提供を開始し、今までに約12,000件の修理を実施してきました。

オットーボック社について：

オットーボックヘルスケア社（オットーボック社）は運動機能を制限された人々がモビリティを取戻し、自立を再発見できるようサポートするための、高品質、革新的、および実用的なソリューションを提供する世界的なリーディングカンパニーです。オットーボック社は1919年にドイツで設立され、今日では全世界にあるグループ会社により、高品質の義肢、装具製品、車いすやリハビリテーション製品、モビリティ製品を、義肢装具の製作施設、代理店、病院などを通して提供しています。

オットーボック・ジャパン株式会社は1999年に設立され、オットーボックグループの一員として、高い目的意識と技術を持ったチームにより、ドイツ本社同様、お客様にとって最適なソリューションを提供するために活動しています。

オットーボック社の目的は最新の技術、革新的な製品とサービスでお客様が最良の結果を得られるようサポートすることです。

オットーボック社は、ソチ2014パラリンピック冬季競技大会における義肢、装具、車いすの修理技術サービスを提供するオフィシャルプロバイダーに任命されました。オットーボック社は障害を持った人々のスポーツやリクリエーションの普及に30年以上も務めてまいりました。パラリンピックには1988年から参加し、2005年からはパラリンピックムーブメントのワールドワイドパートナーになっています。詳細は下記をご覧ください。

オットーボック・ジャパン パラリンピックWEBサイト：www.paralympics.ottobock.jp

オットーボック社 パラリンピックWEBサイト：www.ottobock.com/paralympics

更なる情報、写真提供、パラリンピックでの取材に関する問い合わせ先：

日本の窓口にご連絡をいただけましたら、ソチの現地スタッフと連絡をとり、取材の予約などのご協力をさせていただきます。

【日本の窓口】

オットーボック・ジャパン（株）
コミュニケーション
赤松、樋詰、佐竹
TEL: 03-3798-2113
E-Mail: ottobock@ottobock.co.jp

【現地窓口】

International Media
Anna Parisi
Director, Paralympic Marketing and PR
T: +44 (0)7584 162563
Russian Mobile: +7 938 490 86 33
E: anna.parsi@ottobock.com